

京都市国際戦略ビジョン（案）市民意見の要旨一覧

<対応区分について>

- A 戦略ビジョンに反映するもの（29 件）
 B 戦略ビジョンに記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの（172 件）
 C 戦略ビジョンには反映しないが、その推進にあたり参考とするもの（68 件）
 D 戦略ビジョンには直接関係するものではないが、市政運営等の参考とするもの（12 件）

合計 281 件/124 人

第 1 章 策定にあたって

番号	意見要旨	対応
策定の趣旨 P2		
1	策定の趣旨としては、もっと今を意識して国際交流よりも多文化共生について前面に出すべきではないか。	C
2	現行の国際化推進プランのように事業進捗ではなく、方向性を定めるという方法で、各局と市の国際事業を進めるというのはいいと思う。	B
3	市が勝手にそうだと思いこんでいる妄想の現状分析であってリアル感が全く感じられない。	C
4	「平和への脅威の増大」という言葉は、防衛相などがミサイル設置の必要性を訴える際に使う言葉を想起させるため、使用を避けた方が良いと思う。	C
5	世界文化自由都市宣言に基づき、国際化が進められてきたが、この崇高な理念を伝え、継承していくことが重要である。	B
これまでの取組 P3		
6	①の1～3行目に記載されている色々な取組の結果が、国際会議の件数増のみに見えてしまうが、国際会議開催件数の取組よりも国内外の会議主催者に対する誘致プロモーションによる都市の認知度向上や、都市が持つコンテンツの磨き上げが直接的な効果ではないか。	A
7	P3 の住民基本台帳登録者数の「永住者」の定義は何か。特別永住者なのか、配偶者ビザなのか。どのような立場の人（日本人でも）日本に永住するとは限らないので、誤解を生む表現の記載は不要だと思う。	A
8	③について、外国籍市民には日本の文化、即ち京都市民の日常生活を理解してもらい、自治会連合会にも加入し、なにかと付き合ってもらいたい。	B
本市に求められる政策 P4		
9	京都市は危機的な財政状況にあるわけですから、「これします」「あれします」だけではなく、国際的な視点に立ちつつ「こうやって財政に寄与します」「このように効率的に行います」「思い切ってやめます」などの行財政改革的な表現があると良いと思う。	B
10	誇れる伝統と文化を持つ京都という素晴らしい町がコロナで沈まないでいてほしい。世界の人々と協調して京都のすばらしさが自ずと発揮されるまちであり続けなければならない。	B
11	企業と社会は違う。戦略的思考は素晴らしいが、戦略の下に損得で人を取捨選択することになれば良い社会とは言えない。共生を進めて外国人が住みよい地域であってこそ、戦略が活きるという点を強調して欲しい。	B

12	世界で最も話されている英語による日本人のコミュニケーション能力は、諸外国と比べて非常に低く、これを向上させないと、国際化は一部の限られた市民の関心事にとどまってしまう。 グローバルなコミュニケーション能力の改善は、語学習得だけが手段ではなく、現在は、ICT を活用した高性能なコミュニケーションツールを入手することでも可能である。こういったツールを活用して、より多くの市民が外国人とコミュニケーションを図り、外国人との交流に意義を感じてもらうことが、国際化を推進するために必要な取組ではないか。	B
13	世界の優れた企業とあるが、SDGs を推進するよなという文言を具体的にいれるほうがわかりやすいかと思う。	A
14	京都に都市間競争という言葉はキツイのではと感じた。	C
15	P.4 の国際社会における都市間競争の「競争」という言葉によって取り合いの意味が強く感じるため、有効的ではないと感じた。	C
16	都市間競争という言葉を使用しているが、「競争」という言葉はあまり使わない方がいいかと思う。他都市と競り合っていくという考え方を京都がいつまで持っていくのかと感じている。 例えば、文章の中で、「…の競争が激しくなるなか」と書かれているが、「…の選択肢が広がるなか」といった表現に変えてはどうか。	A
17	現実に市政の実務を担う職員について、外国籍市民の積極的採用と、日本人と同様の昇任を行うべきです。「高度外国人材の割合」を指標に掲げていることから、市役所自体の姿勢が問われると思う。	C
18	研究者・技術者などと呼ぶための環境整備に当たっては、とりわけインターナショナルスクールなど住環境の整備が重要。	B
19	①に関して、世界の優れた企業や研究者、技術者等に選ばれるような環境の整備は、京都が発展していくために大変重要なことだと思うのでしっかりと取り組んでもらいたい。	B
20	京都市がもつ固有の尖った価値が何かを外国人と協働で探り、それを都市全体で伸ばそうとすることが重要。他都市にはなくて京都にあるものを伸ばすことが都市間競争に打ち勝つための鍵となる。	B
21	世界に選ばれる京都をもっと広報PRし、国際会議等のMICE獲得にもっと力を入れるべきである。	B
22	本市に求められる政策1で「世界に向けて京都市の魅力を発信」とあるが、京都市がもつ固有の尖った価値が何かを外国人と協働で探ることが重要である。	B
23	外国籍市民に占める研究者などの割合をさらに増加させていく必要がある。そのためには魅力ある大学や外国籍企業が参入する土壌づくりが大切。	B
24	世界に向けて京都の魅力を発信するとともに、世界の優れた企業や研究者、技術者等に選んでもらえるような環境を整備することによって、京都の魅力がより世界の人にわかっていただいよと思う。	B
25	②について、新型コロナウイルス感染拡大期であっても、姉妹都市の周年を祝い、今後の友好、平和を維持できるか、両都市との関係を通じて国際社会が抱える問題の解決はできるか、議論する必要があるでしよう。	B
26	コロナ禍を踏まえた新たな交流のあり方、方向性について発信し、実践していくことが大切だと思う。	B
27	コロナ社会は続くし、物理的に海外との交流が途絶えることが今後も起こり得ると思うが、そういうことは考えないのか。	B
28	国際都市・京都を志向する中で、海外との都市間交流を図ることは非常に重要である。	B

29	都市間交流においても、最新の技術を活用するなど、費用対効果を意識して取り組んで欲しい。	B
30	国際化推進室には、海外自治体の先進事例を各局や市民に紹介する等、海外の人々の知恵を発信する役割が求められていると思う。	B
31	コロナ禍が当分続く中であってもオンラインなどの工夫した取組を進めて欲しい。	B
32	③について、ヘイトスピーチを許さず、在日韓国、朝鮮人の方がこの街で暮らしてきた歴史や社会的背景を知り、朝鮮学校での学校教育を理解し、教育の自由を尊重しなければならない。	B
33	③に記載されている、外国籍市民等が安心して暮らせる環境整備で記載の、異なる価値観を誰もが認め合うとともに、協働しながらまちづくりができる環境を構築することは困難と思うが、頑張ってもらいたい。	B
34	③に関して、「教育面での環境整備」が非常に重要であり、高い優先度をもって、取り組む必要があると思う。大きな課題である人口減少を乗り越えるためには、外国人労働者の力が必要不可欠であり、その外国人労働者が安心して京都市に来れるよう、子供の教育環境を整える必要がある。	B
35	外国籍市民を施策の客体とするだけでなく、その主体としての認識がまず必要。具体的な内容の記述は難しくとも、そうした方向性や趣旨を今回のビジョンで書くことは可能ではないか。	B
36	多文化理解は、外国住民にも合わせてもらうことが必要ではないか。	B
37	外国籍市民が安心して暮らせる環境整備は、おそらく国際化推進部門しか取り組んでいない部分と思うので、そこは頑張りどころと思う。	B
国際的な事業を展開する意義 P5		
38	京都市国際化推進プランの内容と一番違うところで「国際的な事業を展開する意義」というのが入ったのがわかりやすい。	B
39	どうして国際的な事業をするのかがわかりやすく書いていて、こういうのはいいと思う。	B
40	国際化とは目に見えにくいものなので、意義とかがわかりやすく書いてもらっていいと思うが、作って終わりにならないようにして欲しい。	B
41	国際的な交流についての意義を引き続き発信するとともに、市民が実感できる施策を実施してもらいたい。	B
42	P.5「4 都市のレジリエンスを高める」の部分で、震災が発生すれば京都市民と外国人の方も被災者であると同時に支援者にならなくてはいけない。新型コロナウイルス感染拡大で今すぐはできないだろうが、外国人の方も地域、職場、学校で行う防災訓練に参加し、連携を深め、ともに協力してもらい、英語など外国語の防災ハザードマップ作成、配布も必要である。	B
43	4つの目指すべき都市像も多岐に展開されていて素晴らしいと思うが、国際的な事業を展開する意義の項目は進行管理されるものなのか他の政策や都市像との関連性がよくわからない。	B
44	外国の知恵を京都市に取り込むことが国際的な事業を展開する意義ではないか。	B
45	海外の活力を取り込むという点で、京都のブランドを求めて来られるコンテンツ企業やクリエイターを引き込む必要がある。	B

46	海外からの活力を引き寄せるためには、京都大学などの研究の成果や、スタートアップの実績など、産業面での魅力の海外発信を行っていく必要がある。	B
47	中学生などのとりわけ若い世代に、英語教育だけではない姉妹都市交流の歴史に触れるような教育現場での取組を期待したい。	B
48	P.5 国際的な事業を展開する意義の一番下の図に具体例をいれるほうがいい。	A
49	「レジリエンス」「MaaS」「エコシステム」等の表現は外国籍の人も含め、市民はわかるだろうか。その内容は否定するものではないが、あえてこうした言葉を使う必要性は低いと思う。	A
その他		
50	「京都市国際化推進プラン」では提示されていた具体的な取組の記載がなくなっており全体的にイメージしにくいものになっているのが気になった。前「京都市国際化推進プラン」と比べても全体的にトーンダウンしており、政策的に後退してしまったような印象を受ける。 ・外国籍市民等が活躍できる機会の提供→ 外国籍市民等が安心・安全に暮らせる体制整備 ・市政参加の一層の促進→外国籍市民委員の参加促進 ・民族や国籍による差別をゆるさないまちづくり→不当な差別を受けることのない社会の実現を目指します としてはどうか。	C
51	全体的に課題も押さえつつ前向きトーンなのはいいと思う。	B
52	理想的で非常にバランスよく描かれていて良くも悪くも隙がないと思う。	B
53	国際化と多文化共生は永続的にその推進が求められるものであり、その時代に応じ、時宜にあったかたちで方針を作成し推進していくことは自治体として理想的なあるべき姿と考える。	B
54	シンプルなつくりだと感じたが、本気でみんなで取り組めば、京都が唯一無二の存在として世界の中でも輝くことができると思う。 私たちががんばらないといけないと思った。コロナとかもあってどうなるかわからない中では、これくらいいいと思う。	B
55	コロナで外国との交流に劇的な変化がある今こそ、こうしたプランを作り、明示し、共有することは意義があると思う。	B
56	P2, 6, 8, 9 の「国際的な人々」という表現にやはり違和感を持つ。 ここで言う内容では「グローバル人材」「多様な人材」が適切だと思う。	A
57	外国人の方がマナーを守って観光したり、よりよく生活できるような京都であればいいと思う。	D
58	将来を担う人材の育成なくして、友好親善を目的とした文化交流はもちろん、経済発展や都市の課題解決などにつながる交流など望むべくもない。外国籍市民の受け入れを更に進めるなら、海外にルーツを持つ	B

	人材の活用も積極的に進めるべき。京都が本当の意味で世界から注目される街として発展するには京都や日本以外の人々からの積極的なアイデアが必要。	
59	新型コロナ対策にため京都市への外国人の立ち入りを一切禁止する。	D
60	国際交流と多文化共生はつながっているというか表裏一体だということに気が付いた。そういうことを日常生活のもっといろいろなところで実感できるようにして欲しい。	B
61	国際交流の意義を市民がより実感できる施策を実施することが大切である。	B
62	インバウンドではない地に足の着いた国際化を真剣に考えるのは大変大事なことだと思う。	B
63	京都が国際都市であることは疑うべくもないが、空港からのアクセスが不便なことから、この 20 年間で、東京や大阪と比べ相対的地位が低下しているように感じる。海外向けに京都市のホームページを充実させるなど、京都アピールのための戦略が必要ではないか。	B
64	千年の平安の都、京都に戦略なる言葉は似合わない。方法論だけで、コンセプトの欠如。	C
65	ビジョンを市が勝手に規定している意図が理解できない。	C
66	P7「レジリエンス」などのカタカナ語は、括弧書きで日本語(近いニュアンスの言葉)を入れるなど、高齢者層への配慮も必要ではないか。	A
67	ビジョンのタイトルが国際戦略とあるので京都市外に向かった政策であるのはわかるが、本来の多文化共生や内なる国際化に対する政策としては踏み込みがむしろ後退してしまったように思う。	B
68	特になし。	B
69	特になし。	B
70	特に意見はない。	B
71	素晴らしいと思う。	B

第2章 戦略ビジョン

番号	意見要旨	
本市が目指す国際都市像(全般) P6~8		
1	P.6 第2章戦略ビジョン1の中にある、グローバル企業という書き方は、SDGsを推進するような優れた企業などの書き方が良いのでは。	A
2	国際都市像の実現に向けて、京都市の関わり方が弱いように思う。都市間交流や国際会議の誘致などの取組が、民間レベルでの国際交流や国際協力とどのように有機的に関連しているのか、どのように寄与しているのかが分かれば、京都市の国際化の取組が意義あるものと理解できると思う。	B
3	このビジョンに従って国際化推進部門が各政策の担当部門にどう働きかけるのか、こうであるべきだ、を示して引っ張っていくような迫力が感じられない。	C
4	国際都市像はよさそうなことが書いているが、各部門の計画で書いてあるようなことではないか。このビジョンではそこから一歩踏み込んで京都市をどう持っていくのかはあまり見えてこなかった。	C

5	具体的ではない。	C
国際都市像 1 P9		
6	「世界を魅了し、国際的な人々が集まるまち」について、「集まる」のニュアンスが対面のイメージが強いため、「集まる」を「集う」に変更することは可能か。あまり変わらないかもしれないが、【集まる】のニュアンスが対面のイメージが強いように思う。【集まる】のままの場合は、その集まり方の多様さをどこかに文言としていれて欲しい。P.4 の②に書いてはあるが、もう少し強調してもいいと思う。	B
7	P9「国際都市像1」の取組の方向性の順番を「①魅力の深化→②魅力の発信→③魅力ある環境整備」から「①魅力の発信→②魅力の深化→③魅力ある環境整備」に入れ替えてはどうか。	C
8	外国人留学生や研究者、ビジネスマンが集うまちにして欲しい。京都は大学も多くあるし、世界に展開する企業も多くあるので、この強みをさらに伸ばして京都がいつまでも元気なまちであるようにして欲しい。そのためには、海外から来る人が住みやすいまちにする必要があると思うので、このビジョンをぜひ進めて欲しい。	B
9	国際都市像1「世界を魅了し、国際的な人々が集まるまち」として、伝統産業のブランド価値向上や海外進出を推進していく必要がある。	B
10	京都が世界に誇る伝統文化を世界の人にわかってもらえるということはよいことだと思う。	B
11	世界中から「高度外国人材」を呼び込むことを戦略の中心に据えるべき。現状のビジョンはこじんまりとしており、高度外国人材を惹きつけるレベルになっていない。他局と協力して大きなビジョンを描いて欲しい。	B
12	取組の方向性の一つ目に「京都には多彩な魅力や強みがあります。それらを生かし、国内外の研究者や・・・」とあるが、どうやって生かすのか記載するべき。	C
13	文化芸術と国際交流は密接に関わっているため、互いに協力しつつ、事業等を進めていく必要があると考える。	B
14	日本のアニメ・マンガは世界一。秋葉原とは一線を画した形で京都でもアニメ・マンガカルチャーが形成され、世界を席巻すればおもしろい。	B
15	取組の方向性1の部分で「付加価値の高いものづくり産業」とはここではどういう意味なのか？もう少し具体的な説明があると良いのではないか。	C
16	京都は素晴らしく魅力のある都市だと言われているが、胡坐をかかずにブランド力を高めていかなければならないと思う。	B
17	取組の方向性3について、京都にしかない京都の尖った魅力をより引き出すとともにアピールする政策が必要。道路を自動車から人に取り戻すといった取組によりまちをより洗練されたものとしないう限り、高度外国人材を惹きつける魅力ある環境とはならない。また、京都市内中心部であればどこにいても自然を感じられる環境づくりのような都市計画を意識した取組も高度外国人材を惹きつけるために欠かせない。	B
18	子供たちを含め、私たちは海外と交流した際に初めて自分が京都について全然知らないことを認識する。したがって、京都の魅力を海外に発信するには、まず一人一人が京都の魅力について知ることが重要である。	B
19	京都が国際都市であることは疑うべくもないが、空港からのアクセスが不便で、東京や大阪と比べ相対的地位が低下しているように感じる。海外向けに京都市のホームページを充実させるなど、京都アピールのための戦略が必要ではないか。	B

20	豊かな歴史や文化を持つ京都市がその良さをまだまだ発信しきれていないところがあると思う。京都市の魅力をより力強く発信するために、専門家(職人、茶道や華道など各流派の家元など)と共にプログラムなどを作ると思う。環境問題の分野においても、持続可能なまちづくりが進んでいる国や地域にしっかり見習い、京都大学の専門家などとも連帯し、世界的なリーダーになるといいと思う。	B
21	外国の技術者や職人が京都で活躍している新聞記事をたまに見かける。 一般的にはあまり知られていない伝統産業技術に外国の方が従事しているのはおどろきであった。 こういう人たちが海外メディアを通じて自国で紹介されれば京都の伝統文化の知名度はもっと上がると思う。	C
22	今は海外どころではない時かもしれないが、世界の京都を発信し続けて欲しい。	B
23	海外都市との経済取引をもっと活性化して、京都を売り出して欲しい。	B
24	リモートやWEB会議が一般化するなか、暮らしやすだけでなく、仕事にプラスになる刺激を受けられる場所が生活の場所に選ばれると思う。活性化のためには、特に起業家に選ばれるような視点でのまちづくりが必要だと思う。	B
25	外国人研究者等が働く場として京都を選択できるよう、生活支援や教育環境支援だけでなく、外国人のニーズに適応した住居の提供支援を行ってほしい。	B
26	外国人の方々なくして、経済も立ち行かない昨今、その部分、いわゆる生活支援や多言語化の充実、市民の意識改革が必要かと思う。	B
27	国際化を積極的に進める大学のモデル的な取組を広く大学間で共有してもらいながら、市民にも広げられるような側面支援をして欲しい。	B
28	外国人研究者や企業で働く人、起業家を京都市に呼んでくるためにはビジネス界の協力が不可欠だと思う。京都市にお金がなくとも、そういう企業が知恵や資産を出しあって学校を作るべきではないか。	C
29	スタートアップ・エコシステムの推進にあたっては姉妹都市ボストンでの先進事例を参考にするとともにグローバルな視点での連携を意識して欲しい。	B
国際都市像 2 P10		
30	国際交流のあり方については、時代の流れとともに変化するものだと思うので、昔からのやり方にとらわれる必要はない。	B
31	京都市は「環境」を前に押し出しているけれど、世界に打って出られるようなものなのか。理念を掲げたり、啓発するだけでなく、「環境」を良くするための先端技術とか、ビジネスにつなげられるものを売り出す必要があると思う。	D
32	京都市は財政難だと言っている中で姉妹都市の交流を税金でするよりも保育料の負担を軽減するなど生活に直結する部分を優先して欲しい。	C
33	世界歴史都市会議のように一度に全世界の都市と交流、意見交換ができるツールを持つ都市はない。京都は宝の持ち腐れにならないよう、もっとPRに努めて盛り上げるべき。個別の国際交流は民間に任せて、行政はこの会議運営に傾注すべき。	B
34	世界歴史都市連盟において100都市以上のネットワークを有していることは大きな財産であり、各都市の取組を広く共有しながら市民にも広げてほしい。	B

国際都市像 3 P11		
35	自分の子供が留学生や外国人観光客とふれ合って、語学力や国際性を身につける機会がもっとたくさんあるとうれしい。	B
36	(P.11)国際感覚をもつ人材育成の方法として、留学生などの外国籍市民に対し、日本人と交流や話し合いできる場(仕事場等)を増やすべき。	B
37	世界の人々を惹きつけ、京都の内外において国際的視野をもつ人間が活躍し、多様性が認められる社会像、という理想を市民一人一人の心に届けてもらいたい。	B
38	取組の方向性の3について、グローバル社会という言葉も少し古い感じがする。SDGsとの関連からも例えば、ローカルとグローバルを結ぶ場所で活躍するなどにするのはどうか。	A
39	自治体職員がもっとグローバルな視点を持てば、福祉やまちづくりの分野でその視点を活かせる。外国人も暮らしやすい地域社会が形成されることに役立つのではないかと。だから、特に若い人たちは学生のうちにでもどんどん海外との関わりをもって、視野を広げておいてほしいと思う。	B
40	京都にとっては国際的なまちであることは良いことと思う。京都の良さを失わないように外国の方が訪れたり暮らしやすければうれしい。	B
41	新型コロナ感染拡大の収束が見通せない中、ウィズコロナ社会における海外交流等のあり方を、従来のやり方からどう転換していくのか、その具体的なビジョンなり案が示されていれば良いと思う。	B
42	民間レベルでの国際交流や国際協力への支援、国際会議の誘致などについては、京都府と連携して行ったほうが、予算や人員も確保でき、より効果的に行えるのではないかと。	B
43	「さまざまな世代による国際交流意識の高まり」、「多様性を活かしたまちづくり」、本当にそう思っているのなら、なぜ京都市は民泊を閉め出す規制をしているのか。	D
44	国際都市像3②について、多くの京都市民は外国人と会話することに抵抗があると思うが、同世代の外国人と遊んだ経験をもつ子供が増えれば少なくとも抵抗感は薄れていくのではないかと。	B
45	交流拠点として、京都市国際交流会館と京都市地域・多文化交流ネットワークサロンが紹介されているが、京都の誇る国際交流の拠点である京都大学と国立京都国際会館を抜きに戦略ビジョンは立てられないのではないかと。4施設の相互連携や京都市の施策の融合を深めてはどうか。	A
46	国際交流が盛んになって、外国人ともっと交流できる場所が増えて欲しい。	B
47	外国人の方が困ったときには、国際化交流協会に相談すれば、色んな機関へつないでくれるということ、外国人に限らず多くの方が知っていれば、何とかなると思うので、国際交流協会のことをもっとPRして欲しい。その方法として、小学校や中学校の社会科見学で国際交流協会にも立ち寄ってもらうことはできないか。	C
48	例えば「グローバル京都祭り」などの名称で、国際コミュニティや外国人による祭りを開催してはどうか。	B
49	小さいうちから世界に目を向ける機会を持つということで、「学生」だけでなく「児童生徒」または「子ども」という言葉が入るといいと思う。	A
50	様々な世代で国際交流の意識を高めるために、より多くの市民に関心を持っていただく必要があります。市民新聞などを生かし、京都で暮らしている外国籍市民の紹介などをするとより身近に感じられ、理解が深まると思う。	C

51	学校における国際交流の時間が縮小される傾向があるが、それを考え直し、若い世代から国際感覚を育てる必要がある。	B
52	子どもから高齢者まで幅広い世代に求められることだと思うが、“進取の気風”の精神を持ち、そのことが伝統を受け継ぐことにつながっていくという観点から、みんなが国際感覚を持つことがとても重要と考える。	B
53	グローバルに民間で活躍した経験のある語学豊かな人を国際化担当副市長にしてその人を顔にするなどの方が良いような気がする。	C
54	職員の育成もよいが、まずはグローバルに民間で活躍した経験のある語学豊かな人を取る採用活動だと思う。民間と連携して外の人材を確保するなどの方が現実的。それは外の企業にお金を出して協力してもらうのではなく知恵を絞って win-win の関係を作って欲しい。	C
55	京都市で働く職員には英語力をはじめとした語学力・国際感覚を身に付けていって欲しい。	B
56	京都市役所の国際化のために、英語の中位の学位を取得した卒業生を雇用することを検討して欲しい。	C
57	P11 の 3 「海外で開催される国際会議等への現場職員の参加を推進します」のところ、国際会議は国内でも多く開催されているので、「国内外で開催される」が良いと思う。また、これからはハイブリッド主流になると思うので、オンラインでの参加も含めると良いと思う。	A
58	多様な社会を目指すのであれば、市役所・区役所で英語や中国語などを話せる職員を増やすなど、多言語で対応できる体制を充実させた方がよいと思う。言語面で不便に感じるものが減れば、京都はもっと魅力的な場所になると思う。	C
59	職員の育成については、「海外で開催される国際会議等への参加を推進」とあるが、財政が厳しい側面もあるので、身近に参加できる場に対して、積極的に職員の参加を促進すべきではないか。 また、最後の「…参加を推進します。」という一文については、「…参加を進めるとともに、情報共有を行います。」のように、国際会議等に参加する職員だけでなく、その他の職員に対しても積極的に情報共有していくことを明記すべきではないか。	A
国際都市像 4 P12		
60	前プランに比べて、具体的な表現が少なくなり、日本語サポート、情報提供が中心となっているように見える。「多文化共生」という視点が大幅に減らさせてしまったように思う。	C
61	多文化共生政策の総合的な推進→取組としてイメージしにくいので、もう少し内容を具体的に記載した方がよいと思う。 いろいろなものをここに入れられるので取組例として曖昧すぎる表現だと思う。	A
62	以前は多文化共生という言葉を使っていたのに、今回は使っていないが、外国籍の人を市民と分けた考え方から、徐々に、街と一緒に作る人的に意識してるように感じるので、多様性という言葉もいいと思う。	B
63	4番目の多様性を生かしたまちづくりが一番市民生活に密着した方向性で1番目にもってくるべきではなかったか。	C
64	京都市の国際化の推進、多文化共生の推進はいずれも大事なことだが、財政が傾いてくると真っ先に切られやすい分野とも思う。だからこそ、存在感のあるビジョンとなるよう、応援している。	B
65	口でいうほど多様性を認めることは簡単ではない。	B

66	入管法改正など、特にグローバルな動きが続く折、特に多様性を生かしたまちづくりを重点的に取り組む必要があると思う。	B
67	多文化理解が大事といわれて自分もそのとおりだと思うが、身近に困っているような外国人を見かけず、あまり実感がない。京都にたくさんいる在日コリアの人は昔は大変だったと聞かすが、もう地域に溶け込んでいると思うし、これからはもっと広いところに目を向ける必要があると思う。	B
68	在日コリアンや中国残留孤児などの言及がないのがちょっと寂しく感じた。戦争が終わって長い時間がたったせいか、余り世間でも話題にならない気がするが、今もいわれなき差別に耐えながら日本で暮らしている人がいるのは事実なので、行政として、この状況を引き続き改善する努力を続けるべきだと思う。今の政権は社会的弱者を取り残していく方針みたいなので、京都は本当に「誰一人取り残さない」社会を目指して、先進的な取組をどんどんしてってもらいたい。	B
69	外国籍市民等が取り残されないようにするには、教育が大事で、その視点が盛り込まれていると良いと思う。	B
70	ユニバーサルデザインを意識する時に、障がいを持たれた方だけでなく、外国籍市民等も意識するようにしたい。	B
71	多言語化について、英語、中国語、韓国語に訳されていることが多いが、韓国語は本当に使われているのか知りたい。	C
72	子育ての取組の中で自然に「外国人も対象」と考えられるようにしていきたい。	B
73	位置付けや4つの都市像は、わかりやすい。多文化については、なによりも子どもの教育が重要。外国人児童生徒へのサポートに力を入れて欲しい。	B
74	外国籍児童生徒に対するサポートの充実についてももう少し具体的に記載した方が児童や親も安心するのではと思う(日本語教育、母語教育など)	C
75	いじめの対象になりがちな多国籍の背景を持つ子供たちのサポートもますます重要になってくる。そのため、学校側(教員など)にも講習などを受けてもらい、国際化が進む時代にしっかり対応できるようになる必要がある。	B
76	日本語多言語支援の教育と就労支援のみの記載では新たな時代に少しあっていないような気がする。もう一歩踏み込んで、生涯豊かな生活を送れるような学びの機会を支援することもセットで書き込んで頂けるといいなと思った。	A
77	医療通訳について一切かかれていなかったが、京都市としての事業の位置付けはどのようになっているのか。	B
78	「京都市国際化推進プラン」では大きなトピックとして記載されていた「福祉・保健・医療の充実について」新ビジョンではほとんど記載がない。この項目は外国籍住民の方が京都市で安心して安全に暮らすための不可欠な項目であると思う。言語の問題、生活していく上でのコミュニケーション問題を抱えている外国籍住民は公的にサポートすべき社会的な弱者であると思う。外国籍住民の命と生活に直結する福祉・保健・医療についての記載を大幅に減らされた理由は何か。ビジョンの骨格になっている SDGs は、「誰ひとり取り残さない」社会を目指しており、こうした社会的に弱い立場の人たちにも取り残されないよう目を向けていただければと思う。	C

79	P7 の「レジリエンス戦略」のところに、「保健衛生・医療」とありますが、その他の部分で医療に関する記載がありませんように思った。	C
80	交通アクセスの悪い国際交流会館以外にも、全ての行政区に日本語センターを設置してはどうか。	C
81	日本人市民と外国人市民の人間関係をつなぎながら、双方が生活しやすいまちづくりに貢献するコーディネーターを、地域の実情が把握しやすい「いきいき市民活動センター」や「青少年活動センター」の職員として配置するべきである。 1. コーディネーターとしてセンター職員の活用を明示, 2. コーディネーター機能(問題の緩和, 双方の市民の人間関係をつなぐ)の明示, 3. これら施策の評価方法の明示, 4. コーディネーター育成研修の実施を明示, という4点の追加を提案する。	C
82	取組イメージに「日本語教育の充実」とあるが、大学や日本語学校の日本語教育課程は今でも充実していると思う。足りていないのは、学校教育における日本語指導、教科学習への橋渡し、外国人材を受け入れる企業や施設における職務に必要な日本語の指導。在住者が日本語学校の学習過程できちんと学べるための学費補助、企業や学校・施設への専門日本語教師の派遣支援等のほうが確実に充実させることができる。	C
83	多言語による情報提供については現在の京都市情報館を自動翻訳ではなく、日本語があまりわからない人がアクセスしやすいインターフェイスへの改善があるかと思う。	C
84	災害時での取組で、自然災害になれていない国からの外国籍市民が多く含まれているため、一層の啓発活動が望ましいと思う。オンライン媒体をもっと活用できるはず。	B
85	外国人市民が来日してから日本の生活習慣を伝えていく取組イメージの追記を提案いたします。外国人市民に、日本の生活習慣を理解する機会をいかに確保するのが、「共存」を築くポイントになる。 ①「外国人情報窓口」のような生活習慣を伝える転入時の窓口を設置すること, ②その窓口で、通訳者を付けて日本の生活習慣を伝える時間を設けること, ③不動産業者が、日本の生活習慣について説明する時間を十分に設けるよう依頼すること, ④外国人従業員が、日本の生活習慣をしっかりと理解できるオリエンテーションを開催するように、外国人雇用企業へ依頼すること, ⑤外国人雇用企業が、来日後1か月、半年などの定期的な日本の生活習慣に関するオリエンテーションをするように依頼すること、と言う5点について、取組イメージとして追加することを提案する。	C
86	留学生には LGBT に寛容な国から来ている人も多いと聞く。そういった留学生が LGBT の悩みを相談できる場所として、国際交流会館と協力できればと思う。	C
87	災害時などいざというときは、日頃のお付き合いが大切である。	B
88	市内で暮らす外国籍の方が、災害時などに必要な情報や支援が受けられるよう、体制の整備を進めていて欲しい。	B
89	コロナ禍で京都に暮らす外国籍住民も減少していると思われるが、国際都市京都となるためには、なにより京都に居住することは外国籍市民の人権が豊かに守られ、安心できるという、都市としてのメッセージが発せられることが大事だと思う。	B
90	外国籍市民が不幸にして疾病で倒れた時等の医療費の補填制度(国民健康保険の一部負担減免の外国人に特化・限定した項目など)を打ち出せばまさかの時の安心が広がるのではないかな。	C

91	多文化施策審議会には外国籍市民の方が参加し、意見をもらっているが、それ以外の個別施策の実施に当たっても、真に外国籍市民にとって有意義な施策となるよう、積極的に外国籍市民の声を施策に生かすことを願う。	B
92	外国籍市民等に地域へどう入っていったらいいか、地域の人たちも課題を持っていると思う。	B
93	市営住宅にも外国人入居者がいる。ゴミの出し方がわからないなど、自治会との問題がある一方、地域の祭に参加している例もある。 住民の方にお知らせをまく時に困るのが、英語だけでなく中国語も必要であることだ。	B
94	外国籍の方が増えると文化の違いから生活上の住民トラブルも多くなる。啓発や相談を充実してほしい。	B
95	③について、外国人と京都人が協働で何かを行う地域活動の「場」をつくるのがコミュニケーションのきっかけとして重要。空き地、耕作放棄地を活用したコミュニティ農園といったものが有効と考えられる。	C
96	外国人への偏見をなくすための啓発にも力を入れるべきではないか。	B
97	外国籍市民による地域・市民活動への参加推進について内容が抽象的なので、もし具体的なプランがあるならば「参加促進や…」と併記記載した方がよいと思う。	C
98	④について、日本では海外の国々と経済連携協定(EPA)を締結しており、インドネシア、フィリピンから介護施設などで働く外国人の介護職員の方がいる。どのような希望を持っているか、どのような事で困っているかを聞き、介護福祉士の国家試験を目指しながら働き、周りの職員の方々も手助けしながら業務に就いているので、そうした御苦勞を知り、職員の増員や加算も検討して欲しい。	C
99	京都には不幸な外国人は来てほしくないし迎えてほしくない。外国人労働者を迎える会社には覚悟して受け入れてもらわないといけない。	B
100	④の外国籍市民等の地域での就労支援に、進学や生涯学習支援とセットで書くのはどうかと思う。	A
101	留学生が卒業後も働き続けてくれる環境が重要と思う。京都の企業にとっても国際化に対応する力が高まることにもつながり、地域にとっても大きなプラスになる。	B
102	3について、京都は大学が多く留学生も多いが、定着率が低い。留学生全体の8割が日本での就職を希望しているにも関わらず、実際の内定は3割ほど。京都の企業も、あまり留学生に開けていない現状もあるが、京都市内での留学生の定着のために、行政にも外国人インターン制度の導入や正式雇用など積極的な改革が必要。海外の自治体は外国人材の活用ができており、グローバル化に対応している。	B
103	京都は、留学生等に対して「お客様」の意識が強く、一時的な日本滞在中の環境整備やサービスには力を入れていても、未来の京都を担う社会の構成員として迎えるという視点に欠けている。留学生を誘致し、京都で学んだ留学生がその後京都に定着するところまでを一続きで考えた環境整備が必要。高度な日本語を習得し、日本社会のシステムにある程度精通した人材が定住することで、その人達が今度は、地域の外国人を助け、支えられる大事な人材になる。(多文化国家ではこの流れができています)	B
104	外国籍市民等の地域での就労支援について取組イメージをみると留学生だけに見える。もし外国籍市民に対するものもあるならば新しい取組になるのでむしろイメージに併記記載した方がよいと思う。	A
105	P.12 下の段の一番下の「留学生と企業がつながる機会等の創出等の就職・採用支援」という日本語表現が少し変に感じる。	A
その他		

106	京都の国際政策の方向性ということで、わかりやすく示されていると思う。	B
107	コロナ禍で国際交流が希薄しているときだからこそ、国際交流、多文化理解、多文化共生について今まで以上に取組まないといけなと感じる。	B
108	9ページからの「取組イメージ」が記載のレベルがバラバラな気がする。 合わせるか、「取組イメージ・取組例」とかにしてはどうか。	C
109	多岐に渡っていると思う。	B
110	取組イメージは、今でもしている内容ではないか。	B
111	取組のイメージに具体的な事業がかかっているが、既に実施されているものが多い。イメージというタイトルは合わない。マレーシアにおけるというのが限定的。	A
112	京都はプライドが高くて閉鎖的なまちと言われているが、多くの外国人に愛されていると感じています。戦略とはいいいながらも京都らしさがにじみでたものになっていると思う。	B
113	SDG's 目標5は男女平等の実現に関し、男女議員の割合を近づけられるよう、クォータ制度(パリティ)の導入を検討して欲しい。	D
114	SDGsの目標5を達成するために、女性差別撤廃条約選択議定書 批准のための意見書を取りまとめて欲しい。	D
115	市が目指すべき国際都市像がビジュアルで用いられており、分かりやすい。	B
116	文書はきれいだが、総花的で中身がない。前段にウイズコロナ時代の課題があると書いているが、それに向けての対策が何もなく、コロナをあまり考慮しなくてよかったときのビジョンと大差がない。	C
117	目指すべき国際都市像の達成に向けて、ビジョンのイメージを SDGs とレジリエンス戦略と関連づけているが、分かりやすいと思う。	B
118	「京都市国際化推進プラン」と記載方法が異なり、記載量も増えたので抽象的な表現を使わざるを得なかったという点は理解できるが、取組イメージについてはより誤解のないようにわかりやすい事業を記載すべきだと思う。	B
119	外国籍の方々の経済活動に、京都市に住む日本籍の市民が参画することで、経済が今よりも回るのではないか。外国籍の方々が豊かになるような、イベントとか、楽しい事業をして欲しい。	B

第3章 指標・推進体制

番号	意見要旨	
指標	P13	
1	指標については、ある程度客観性が保たれているので適切だと思う。	B
2	指標は難しいと思う。検証の仕方をきちんと考えて欲しい。	B
3	指標ありきで意味のない数値を挙げる必要はないと思うが、きちんとモニタリング指標を分析したうえで取組を進めないと、絵に描いた餅になる危険がある。	B
4	安易にインバウンド観光客数を指標に入れていない点は評価できる。指標に様々な数を取り上げられているが、数を追い求めるのではなく、その数をもたらす京都への良い影響は何なのかをしっかりと見極めて施策の充実を図って欲しい。	B

5	外国籍市民の割合を指標とすべきなのかも疑問である。というのも、人口減少社会の中で外国籍市民の割合を指標に掲げることは、すでに総数を掲げていることもあって意味がないと思う。	B
6	京都市国際交流会館におけるセミナー・イベント参加数が多いのはよいことだと思う。 セミナーをすることによって、そのものの良さがわかってよいと思う。	B
7	モニタリング指標はいい考えだと思う。 でも指標の分析はとても大事。	B
8	あくまで指標は指標であり、数字や割合が増えることが一律で良いことと考えるのではなく、その増減の背景を分析し、必要な政策などの参考にすることが大切だと思う。	B
9	多文化共生の指針はつukらないのか？	C
10	多文化共生の指針はつukらないのか？（別意見）	C
11	目指す姿ごとの重点指標を定めても良いかと思う。	B
12	4番目の多様性・多文化共生の指標が、結局は外国籍関係の人数の動態を捉えるものとなっているが、コミュニケーション、安心安全な暮らし、市民活動参加促進、就労支援はそういった指標で捕捉できるものではないのではないのか。	C
13	各指標の現況値についての記載はあるが、目標値の記載がない。すべての指標を掲げるのは難しいかも知れないが、挙げられるものは掲載すべきではないか。	C
14	指標はあるが、目標がないので、どのようにしたいのか、どうすれば、京都市の目標が達成されるのか見えない。	C
15	「外国籍市民数に占める高度外国人材の割合」と「外国籍の住民基本台帳登録者数」を最重要指標と位置づけ、この2つについては数値目標を掲げるべき。	C
16	何らかの数値目標は立てないのか。	C
17	指標は書いてあるが目標値が書いていないので、今の状態がダメなのか十分なのか、京都市がどう認識しているのかわからなかった。これを増やしたいのか、維持したいのか。国際都市像に書いてある取組を実施したとして、ではこの指標が増加するのかといえばそういうわけでもないように思う。つまりビジョンの目的と指標が合っていないのではないかと思う。	C
18	毎年どういった目標をもって事業を推進するのか。指標を設定している意味がない。従来の枠組みにとらわれずにウイズコロナの時代における目標設定、ビジョンを検討して欲しい。	C
19	京都で外国人が就職できる環境づくりや指標を持つべきではないか。	C
20	指標はたくさんあったほうがいい。京都にある外国企業の支店の数とか、外国に進出している京都の会社の数とかがあると実感がわきやすいと思う。	C
21	市民のグローバルコミュニケーション能力の程度を図ることができる指標を入れることはできないか？	C
22	P13の指標について、外国人労働者に選ばれている都市であるかどうかを検証するために、もし把握が可能であれば、「京都市内の企業における外国人労働者数」を挙げるのもいいかと思う。	C
23	いろいろな指標をチェックすることは大事だと思う。ただ、指標に表れてこないものもあると思います。京都に暮らす外国人の方が日々感じていることや、こうしてほしいという気持ちなどをくみ取ってもらえると、きつといい政策を考えていただく動機になるのではないかと思う。	B
24	外国人住民の住みやすさを図ることができる指標を入れることはできないか？	B

25	「外国籍の住民基本台帳登録者数」に関して、「永住者数」をわざわざ掲げる理由が分からない。(せめて「永住者」の定義・説明が欲しい。)	A
26	コンベンション開催件数、参加者数の数字が記載されているが、それぞれどういった基準でカウントされた数字なのか。国際会議の開催件数のカウント方法には、JNTO基準、ICCA基準等様々ある。	B
27	私には難しいことはよくわからないが、この数字をきちんと評価してくれる偉い先生がしっかり見てくれたらいいと思う。	B
28	「外国人留学生」が「目指す姿3」の指標になっているが、「目指す姿1」の指標にすべきでは。	C
戦略ビジョンによる国際的な事業の推進体制 P14		
29	京都市が国際化を進めるためには、あらゆる分野での主体的な意識改革が必要であり、各部署においても広い視点での組織運営にあたって欲しい。	B
30	このビジョンを「作って終わり」にしないように、しっかり推進して欲しい。	B
31	推進体制については、実質的な中身がない。	B
32	国際戦略ビジョンの推進にあたっては、国際の部署のみならず、関係部署との横串を刺した連携が必要。そのためには、課題や目指すべき方向性を共有できる体制づくりが重要。	B
33	共生のまちづくりに関しては当事者の意見を聞くことが必要だと思う。	B
34	京都市の真の国際化に向けて、国際化推進室さんを中心に頑張ってもらいたい。	B
35	こうしたビジョンについて当事者である外国籍住民の方は見る機会、意見する機会があるのか。日本語と英語で提供されているが、京都市における上位5位の国籍は英語圏ではない。そうした住民の実態に合わせた提供を考えるべき。	B
36	作って終わりでは意味がない。ちゃんとやれるかどうか。	B
37	計画があったからやれていたことが、やれなくなるようなことはあってはならないと思う。これまでも海外にも名の知られた京都であるが、そういう自覚と行動があるかどうかは疑問である。国際戦略ビジョンはそういうところに効くように今後動かして欲しい。	B
38	適宜、取組状況について市民とも共有しながら、取組を進めてもらいたい。	B
39	「全庁横断的に情報共有、事業の協働」というのが、結局、各部局の取組を発表して、共有してそれで終わりになるのでは意味がないので、ビジョンの実現のためにこう汗をかくてくれやと言え、その「こう」の部分がこのビジョンに必要ではないかと思う。	B
40	京都市の国際化施策はそれぞれバラバラに取り組んでいるように見えるので、国際化推進室が、各部門の取組をどうバックアップするのか、そこに筋を通す串のようなものがこのビジョンであればよいと思う。	B
41	実施体制が、京都市、京都市の外郭団体による一方向の事業が多く、市民や外国人住民の参画が見えにくいように思う。地域社会、地域団体や企業、NPOなどの様々なステイクホルダーと協働や連携していくことが、京都市市民の理解・意識向上につながるとともに、実施の担い手の育成にも大きく寄与すると思う。そういったプランがあれば、ビジョンに明確に記載すべきだと思う。以前の国際化推進プランでは協働や連携について触れられていたが、新ビジョンでは数カ所であつた、協力・交流という表現にとどまっている。	A
42	推進体制にあまり市民とかが意識されていないような気がする。	A

43	ワーキンググループなど、外国語をそのままカタカナにすると分かりにくいので、できるだけ日本語で、誰が読んでもすぐに理解できるように説明する方が良いのではないかな。	A
44	カジュアルに、学生・生徒や外国籍住民、企業社員や地域役員などが防災、安全、地域活動等のテーマのもとに集まれるような工夫によって、かっちりとした体制のほかに、「市民ミーティング」のような枠組みがあったらいいのではないかな。	C
45	海外とつながっている企業は有識者に入っているのだろうか。学術会議のように学者だけ集まってやる会議はよく聞かすが、効果があるのかよくわからない。	C
その他		
46	数字ではそこそこ外国人もいるが、実感がない。 事実や状況を知ること大切と思った。 毎年状況を公開して欲しい。	B
47	画餅に帰さぬよう、地に足のついた計画遂行は必須である。畢竟、客観的な指標を数値と時間軸を用いて進行管理することは蓋し必然である。但し、数値の通増ばかりに捉われていては、目的と手段を取り違えることになる恐れは多分にあることに留意するべきである。	B
48	しっかりしていると思う。	B
49	特にない。	B

その他

番号	意見要旨	
1	コロナについて、ほとんど考慮せずに、コロナがなかった時代に考えたことの付け足しになっている。1 年策定を遅らせて、意味のあるものにして欲しい。	C
2	コロナを考慮していないことについて、手抜きを感じる。外国人を呼ぶことと、コロナは相反することで、従来までと考え方が変わり難いのはわかるが、それを触れずに曖昧にし、計画の策定を急いでいるように感じる。あまりに役所的でお粗末。	C
3	全体的に具体性に薄く、目標もあいまいで、どうすれば進捗したといえるのかが見えない。例えば今年度に計画ができなかったとしても、コロナのことも考えた意味のある計画を策定すべきではないか。現在の計画案では中身がなさすぎ、大幅な見直しが必要だと思う。	C
4	姉妹都市がどこでいつから交流していて、これからどんな交流するのかの情報が欲しい。	A
5	姉妹都市やパートナーシティがどこで、いつ周年がくるかが分かりやすくあると、中期的な計画が立てやすい。	A
6	全体として、「多文化共生」の視点が弱く、その記述が少ないと感じる。主要な項目・タイトル等に「多文化共生」の言葉が全く出てこないのは、寂しい限りである。市民にとって分かりにくい「レジリエンス」などに紙幅を割くのではなく、「多文化共生」に関連する記述を充実、「見える化」する必要がある。	A
7	京都のまちなみが一見の外国人受けを狙ったゲストハウスやよくわからない店で埋め尽くされ、本来の姿を失いつつある。京都が安売りされず歴史と文化のある京都としての誇りを住民・行政で持ち、世界に誇れる京都でありつづけられるようまちを守っていかなければならない。	B

8	戦略ということばが怖い、このビジョンが実現する社会が来ることを祈っている。	B
9	都市の国際化や多文化共生社会の促進とはいかなるものであろうか。なぜこれらの視点について計画をもって推進しないといけないのか。何もいま国際化を意識しなくとも今日困ることはない。理想を求めることは当然として、現在の具体的課題認識自体を意識することが課題そのものなのである。今日一つ一つの多文化共生の意識づくりが10年後には大きな差となって顕在化する。自戒とともに私たちは都市の国際化、多文化共生社会について今一度見つめなおす必要がある。この計画はその一助となるでしょう。	B
10	京都市はイベントが乱立していて、今の時代にそぐわないと思う。イベントをしなくても、京都が世界の中でもどれだけ珍しいところか、もっとじっくり考えたり気づいたりすることも大切だと思う。	C
11	京都で生まれて学んだ人で世界で活躍している人のことをもっと紹介して、これから大人になる子たちにも教えてあげて欲しい。	C
12	こどもといっしょに考えていけるようなものもつくって欲しい。	B
13	幼稚園でも国際化が進んでいけばいいなあと思う。	B
14	国際交流会館と国際会館の名前が紛らわしい。kokoka の愛称をもっと前面に押し出して、地下鉄蹴上駅などでももっとアナウンスして欲しい。	C
15	市内には、京都大学の吉田国際交流会館もあり、「国際交流会館」という名称だけでは、京都市国際交流会館以外の施設と誤認されるおそれがある。P12には京都市国際交流会館という文言もあるため、こちらの記載もそれに合わせてはどうか。	A
16	国際交流会館は北部にあるので南部の人間には使いにくい。 向島学生センターに第二の拠点窓口をつくって欲しい。	C
17	事業を一杯並べて「やってます」感を出すのではなく、国際化する京都のあるべき姿を高い次元で示す「戦略ビジョン」は、時代の素早い移り変わりにも柔軟に対応できる優れたものだと思う。	B
18	外国籍の人と日々の暮らしの中で普通に触れ合うことが一番の国際交流であり、世界平和にもつながる。自分の生活圏内に外国籍の人が普通にいる、いられる環境をつくるのが一番大事だと思う。そのためには外国籍の人が暮らしやすいまちをつくる必要がある。このビジョンの実現に期待している。	B
19	京都の国際交流の拠点である京都迎賓館・国立京都国際会館・京都大学・同志社大学・立命館大学に関する記述がほとんどない。	A
20	京都のまちに憧れる人は、日本や世界にたくさんいると思う。いろいろな人が訪れ、交流し、活躍できる開かれたまち京都が、SDGs 実現の牽引役となることを期待している。	B
21	外国籍市民が自由に共同参画できる外国人起業特区しかない。	C
22	時代によって計画で位置付けられる国際化推進の意義は少しずつ変わっていくが、根本にあるのは市民間の交流の蓄積によってできた絆である。そのことを実感として感じられる市民が増えるような取組を進めていてもらいたい。	B
23	国際情勢が激しく変化している中で計画やプランではなく、「京都市国際戦略ビジョン」という名称は考えられた良い名称だと思う。	B
24	京都府の国際課との住み分けはどのようになっているのか。相互に連携できる部分があれば、連携した取組をしたほうが効果が出るのではないかな。	C

25	全体的に外国人が来訪する「待ち」の立場からの記載が多いように思える。外国で活躍する人材を作って いってこそ、京都の魅力を発信していけるのではないかな。	B
26	特に多様性を生かしたまちづくりについての取組を重点的に実施してもらいたい。	C
27	京都で学ぶ留学生が京都を好きになって故国に帰って、活躍され、京都のファンでいてくれるように、この 計画が生かされればいいと思う。	B
28	京都のことを世界の人々にわかってもらえるように、あらゆる手段を使って発信することが大切だということ がよくわかった。	B
29	外国人観光客を目当てにした店があまりにも多くできて辟易としていた。早くそういう下品な店が淘汰されて 落ち着いた京都の街並みに戻ってほしい。	D
30	マナーの悪い外国人観光客を、文化が違うから仕方がないと割り切ることはできない。郷に入れば郷に従 えというようにマナーを守ってもらって初めて認め合えると思う。観光客を受け入れる側の京都市も、マナー を守ってもらうように何がマナーか明示すべきではないか。	D
31	文字が多いよりパッとみて直感的に理解できるのがこれからは大事。	B
32	限られている資源や財源で一生懸命取り組んでもらえて、ありがたい。よりよいまちづくりを期待している。	B
33	こういうことに真剣に取り組んでくれている方々いるということが実は人々の生活につながっていて、安心し て京都に暮らせているのかなと少し感じた。	B
34	国際都市京都の未来が楽しみである。	B
35	楽しい街になったら、家族で遊びに行きたい。	B
36	はりきって進めて欲しい。	B
37	素晴らしく、特に意見はない。	B
38	特にない。	B
39	京都にはデータセンターもピアリングポイントもないため、デジタル経済を基盤にしたビジネスを拡大してい くに当たって大きな障害となっている。あらゆるものが大阪や東京にしかない。京都は少なくとも市内の3つ のデータセンターを使うことができ、府内全域を巡るファイバー・ネットワークの受信地点がある舞鶴の旧海 軍基地のデータセンターを使えば、地域の活性化とビジネス誘致に大きく貢献するはずだ。コロナ禍によ り、大都市は、労働者にとって、持続的な解決方法というよりは、むしろ落とし穴だということが明らかになっ た。京都は売り出すべきだ。	D
40	京都はもっと低価格でより近代的なオフィス空間を提供すべきである。京都市がよりデジタル化の時代に移 行できるよう、また、地域の事業者や電話会社も使用できるように、市が広範囲に所有・管理する光ファイ バーが必要である。過去にいくつかの取組が行われたのは知っている。京都は、願えば、日本の「シリコン バレー」になれると思っている。あとは京都市の発展を阻害している既存の電話会社にかかっている。	D
41	デジタル化を推進するためには、京都の伝統的な側面・近代的な側面の両面の要件のバランスを取る必 要がある。	D
42	すぐに時間オーバーで意見が言えない。フォームを見直して。	D

